

報道関係者 各位

2023年9月4日

**ライフエンディングの最新情報をお届けする『燦ホールディングス Heartful Vol.10』を発行
未知のウイルス“新型コロナウイルス”との1000日間の戦い
故人との最後のお別れをエンバーミングで叶えるために**

公益社などの葬儀社を傘下に持ち、終活から葬儀後までのライフエンディングのトータルサポートを提供する、燦ホールディングス株式会社(東京本社:東京都港区、大阪本社:大阪市北区、代表取締役社長:播島 聡)は、『燦ホールディングス Heartful Vol.10』を発行します。

新型コロナウイルスがインフルエンザと同等の5類に移行してから4か月あまりが経ちます。コロナで激変した世の中ですが、いついかなる時でも葬儀の現場を止めることはできません。今回の『燦ホールディングス Heartful Vol.10』では、緊急事態の中でもコロナに感染された故人との最後のお別れをエンバーミングで叶えるために奮闘したエンバーマーたちの取り組みを紹介します。



〈燦ホールディングス Heartful 概要〉 ※Vol.7より名称変更、Vol.1～6は「公益社 Heartful」として刊行
◇発行日: 2023年9月(Vol.10) ◇発行: 燦ホールディングス ◇価格: 無料
◇バックナンバー: Vol.1「ライフエンディング徹底総括」
Vol.2「with コロナ時代 必要性の高まるグリーフケア」
Vol.3「遺体衛生保全技術 エンバーミング」
Vol.4「コロナ禍の長期化で、葬儀への考え方に変化」
Vol.5「後悔をしないために知っておくべき葬儀費用の知識とは」
Vol.6「ライフエンディング コロナ禍をきっかけに変化したこと、変化しなかったこと」
Vol.7「新型コロナウイルスの流行で、「終活」への考えに変化」
Vol.8「終活(ライフエンディングプラン)は今が転換期 “不安だらけの老後ではなく、希望に満ちた未来に”」
Vol.9「過去5年以内に葬儀を執り行った2,000名のうち70%が家族葬を選択
家族葬へのニーズが高まる中で生まれた新たなスタイル」

〈燦ホールディングスとは〉

1932年に「株式会社公益社」として創業、2004年持株会社制への移行に伴い、燦ホールディングスに商号変更。グループには「株式会社公益社」(持株会社制への移行時に会社分割により新設)、「株式会社葬仙」、「株式会社タルイ」の葬祭事業3社および葬祭サービスに必要な機能を提供する「エクセル・サポート・サービス株式会社」、ライフエンディングサービスのポータルサイトを運営する「ライフフォワード株式会社」から成り、葬儀を中心としたライフエンディングサポート事業を展開しています。また、2023年4月から家族葬に特化した新ブランド「ENDING HAUS」の全国展開を開始しました。1994年に葬儀会社として初めて株式を上場(当時の大証新二部)。現在は、全国に約5,000社あるといわれる葬儀会社の中で数少ない東証プライム上場企業です。

【燦ホールディングスグループ】

- ・燦ホールディングス株式会社 <https://www.san-hd.co.jp/> ・株式会社公益社 <https://www.koekisha.co.jp/>
- ・株式会社葬仙 <https://www.sousen.co.jp/> ・株式会社タルイ <https://www.tarui365.co.jp/>
- ・ライフフォワード株式会社 <https://life-forward.co.jp/> <https://www.eranda.jp/>

〈新葬儀ブランド〉 ※2023年4月から家族葬に特化したブランドを展開中

- ・エンディングハウス <https://www.koekisha.co.jp/endinghaus>

燦ホールディングス Heartful Vol.10の本紙やバックナンバーをご希望の方は下記の連絡先へお申込みください。

〈本件に関するお問合せ先〉

燦ホールディングス株式会社/株式会社公益社 広報代理 (株)インテグレートコミュニケーションズ
担当: 村山(amurayama@integrate-com.co.jp)、TEL:03-5464-2046

SAN HOLDINGS

燦ホールディングス ハートフル

Heartful



燦ホールディングス株式会社
SAN HOLDINGS

未知のウイルス“新型コロナウイルス”との1000日間の戦い

故人との最後のお別れを エンバーミングで叶えるために

新型コロナウイルスがインフルエンザと同等の5類に移行してから4か月。葬儀の現場もようやく元に戻り始めています。コロナ禍であろうと、いついかなる時でも葬儀の現場を止めることはできません。緊急事態の中、コロナに感染された故人との最後のお別れをエンバーミングで叶えるために奮闘したエンバーマーたちの取り組みを紹介します。

突然のコロナ禍

葬儀社ができることは

2020年1月に国内で初めての新型コロナウイルスの感染が報告されてから、感染拡大が止まることはなく、未知のウイルスの恐怖に怯える日々が過ぎていきました。

そのような中、参列者と現場の社員を守るため、いち早く「コロナ感染対策室」を立ち上げ実践したのが、燦ホールディングスグループの公益社です。

感染対策として、参列者を最小限にする、飲食を控える、など様々な制約がある中、故人との最後のお別れに悔いが残らないよう、葬儀社ができることを模索し続けました。

しかし、当時の厚労省のガイドラインでは、感染された故人とご遺族は対面をすることが難しく、そのまま火葬されるケースがほとんどでした。最後のお別れがかなわなかったご遺族の悲しみは、より深いものとなりました。



公益社のエンバーマーたちは、「本来ご遺体の衛生保全のための技術であるエンバーミングをすれば感染されたご遺体と最後のお別れをすることができるのではないか」と考えていました。

感染された故人の

エンバーミングを実現するために

公益社のエンバーマーたちは、日々の業務と並行して、新型コロナウイルスについての調査を開始しました。

国内外の新型コロナウイルスに関する文献や、海外での感染者へのエンバーミング施術に関する事例など、感染者への施術に可能性が見え始めてきた2022年4月、ついに社内プロジェクトチームが立ち上がりました。

感染された故人のエンバーミング施術実現に向け、金子さくら子（IFSA認定スーパーバイザー・エンバーマー 臨床検査技師）をキャプテンとする当チームは、知見者からの情報収集、ご遺体のPCR検査の協力機関への要請といった社外との調整、社内ヒヤリング、関係者との協議、施術受け入れ開始のタイミングの社内調整といった様々な活動をしてきました。

そしてついに同年11月から、感染された故人のエンバーミング施術受け入れがスタートしました。

感染された故人へのエンバーミング 実現で得たこと

感染された故人へのエンバーミングは、ほとんどのご遺族が選択されています。故人の生前に近い顔を見て、最後のお別れができたことを、喜んでいただくことができました。



2023年1月に更新された厚労省のガイドラインでは、病院でエンゼルケア^{*1}を施されたご遺体であれば通常の葬儀をしても良いことになりましたが、葬儀社によって対応は様々です。

公益社では感染された故人のエンバーミングが可能になったことで、皆様が安心して葬儀に参列し、ゆっくりと故人との最後の時間を過ごせるようになりました。

コロナ禍においては、感染している、いないに関わらず入院中のお見舞いができないケースが多かったことや、葬儀に参列できる人数制限など、故人との最後のお別れに未練を残すケースが発生しやすくなっていました。

葬儀社の使命は、故人の遺志を尊重すること、ご遺族によりそい悔いの残らない最後の時間を提供することにあります。感染された故人へのエンバーミング施術の実現はまさにその使命を全うする取り組みであったと思います。

今後予期せぬパンデミックへの対応の礎になりました。

※1 死後に行う処置、保清、エンゼルメイクなどの死後ケア全てを指す

エンバーミングとは… よりよいお別れのために、ご遺体に消毒殺菌・防腐・修復・化粧をし、生前のお姿に近づける技術です。ご遺体の状態変化が軽減されるため、時間に余裕ができ、故人の遺志やのこされた人たちの思いを十分に葬儀に反映することができます。

プロフェッショナル

エンバーミング黎明期にエンバーマーを目指し20年 今はエンバーミングの現場を支えながら、後進の育成に従事

欧米ではあたりまえのエンバーミングですが、日本にエンバーミングが導入され始めたのは1988年で、当時年間の施術件数が200件以下だったのが、いまや年間60,000件に迫る勢いです。この件数に比例して日本のエンバーマーの人数も年々増加しています。今回は日本のエンバーマーの仕事を紹介します。

テレビで観たエンバーミング特集、 祖父と友人の死が人生の転機に

中学生の頃、深夜のニュースでエンバーミング特集を観たときに、当時興味を持っていた科学・芸術・心理学の要素全てが満たされる仕事だと思いました。

その後、祖父が他界したときの死に顔が生前中とあまりにも違い、驚きとおそれを感じたことや、中学・高校で友人が交通事故等で亡くなり、最後にお顔を見ることができなかったという経験を通して、最後に安らかなお顔の故人とお別れをすることが、いかに大切かがわかりました。

これをきっかけに、将来エンバーマーになることを決意しました。

エンバーマーの業務とは

私はエンバーマーとして、公益社で22年従事してきました。エンバーマーの主な業務は、ご遺体を故人の生前のお元気だったころの状態に戻すことです。言葉で言ってしまうと簡単ですが、どれひとつ同じご遺体はなく、毎回どのようなお肌の色にするのか、病気でやつれたお顔をどこまで修復するかなど、全てエンバーマーの技量が試されるため、日々勉強の連続です。

現在エンバーミング事業部長、ひだまりの会事務局長として部署全体の管理、公益社のエンバーミングの適正な普及、ご遺族のグリーフケアが主な業務となっています。欧米に比べ、日本はエンバーマーの数が圧倒的に少ない状況です。さらに国内でのエンバーミングの認知・理解浸透に向けエンバーマーの数を増やすことは急務です。

そのために、IFSA(日本遺体衛生保全協会)が運営するエンバーマー養成校の講師も務めています。

エンバーマーの数を増やすために 取り組んでいること

エンバーマーになりたいと思う人を増やすためには現在IFSAが認定する資格を公的な資格に格上げすることが重要と考えています。

そのために、「エンバーミング議員連盟」の勉強会への参画、厚労省特別事業研究への参画、厚労省による「認定エンバーマー養成研修」の講師、防衛省陸上自衛隊予備自衛官(技能)にエンバーマーとして志願など、社外での活動を増やしています。

人生100年時代といわれる今、エンバーミングが100年後に日本で定着し、エンバーミングをすることが当たり前前の社会になっていることを目指し、今後も様々な取り組み、活動を展開していきたいと考えています。



エンバーミング施術前の
スタッフミーティング

ある1日のスケジュール

7:30	出社
8:00	朝礼
8:30	部署内メンバーの面談
10:00	社内会議
11:00	医療系学会用の資料作成
12:00	ランチ
13:00	他部署との会議
15:00	IFSA打合せ
16:00	医療従事者向けセミナー準備
17:30	医療従事者向けセミナー講師
19:00	退社

オフタイムのこだわり

仕事ではなかなか会えないような人に会って多くの話をする事で、気持ちの切り替えと新たな知見を得ています。また、身体が資本の仕事ですのでスポーツをするなど体のメンテナンスも心掛けています。



宇屋 貴(うや たかし)

株式会社公益社 エンバーミング事業部長、
遺族サポート「ひだまりの会」事務局長、
1級葬祭ディレクター、
IFSA認定エンバーマー スーパーバイザー、
厚労省認定エンバーマー養成研修講師
(担当科目:海外遺体移送)、
予備自衛官(エンバーマー)

2001年 大阪大学 人間科学部卒業後 公益社入社、
2002年 公益社 エンバーミングセンターに配属 現在に至る。
エンバーミング、グリーフケアに関するセミナーの講師も多数務める。

燦ホールディングス グループとは

1932年に「株式会社公益社」として創業、2004年持株会社制への移行に伴い、燦ホールディングスに商号変更。グループには「株式会社公益社」(持株会社制への移行時に会社分割により新設)、「株式会社葬仙」、「株式会社タライ」の葬祭事業3社および葬祭サービスに必要な機能を提供する「エクセル・サポート・サービス株式会社」、ライフエンディングサービスのポータルサイトを運営する「ライフフォワード株式会社」から成り、葬儀を中心としたライフエンディングサポート事業を展開しています。また、2023年4月から家族葬に特化した新ブランド「ENDING HAUS」の全国展開を開始しました。1994年に葬儀会社として初めて株式を上場(当時の大証新二部)。現在は、全国に約5,000社あるといわれる葬儀会社の中で数少ない東証プライム上場企業です。

<https://www.san-hd.co.jp/>

シニア世代とそのご家族の人生によりそい、ささえる ライフエンディングパートナー

